

2021年3月期 第1四半期 決算説明資料

株式会社 F U J I



目次

- 第1四半期決算の概要
- 2021年3月期 業績予想
- 事業概況・その他

第1四半期決算の概要

決算のポイント

▶ ロボットソリューション事業

スマートフォン、スマートフォン用アクセサリ、5G基地局等、通信関連向け需要が底堅く推移したのに加え、半導体関連向け販売が伸びたいたしました。一方、新型コロナウイルスの感染拡大による影響のため、欧米での設備投資は引き続き軟調に推移いたしました。

▶ マシンツール事業

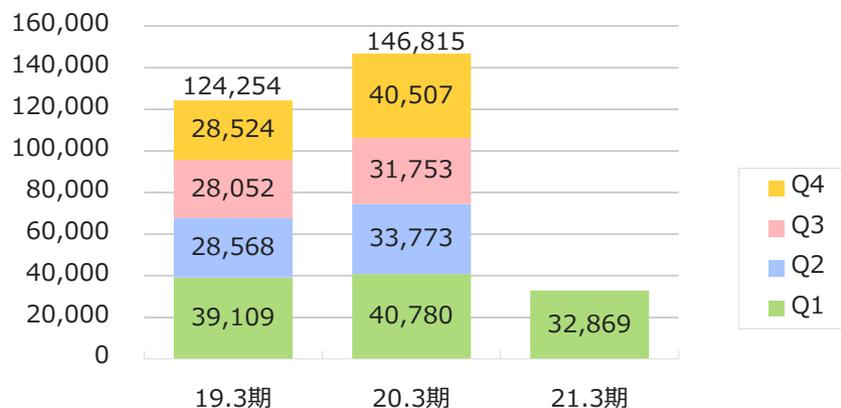
従前からの市場の停滞に加え、新型コロナウイルスの感染拡大による影響のため厳しい状況に直面し、主に日本国内、中国、北米で販売台数が大きく減少いたしました。

2021年3月期 第1四半期 業績

(百万円)

	20.3期 Q1 実績	21.3期 Q1 実績	対前年同期	
			額	率
受注高	40,780	32,869	▲7,911	▲19.4%
売上高	30,732	37,800	+7,067	+23.0%
営業利益	4,841	6,434	+1,593	+32.9%
経常利益	4,896	6,991	+2,094	+42.8%
当期純利益	4,053	4,948	+895	+22.1%

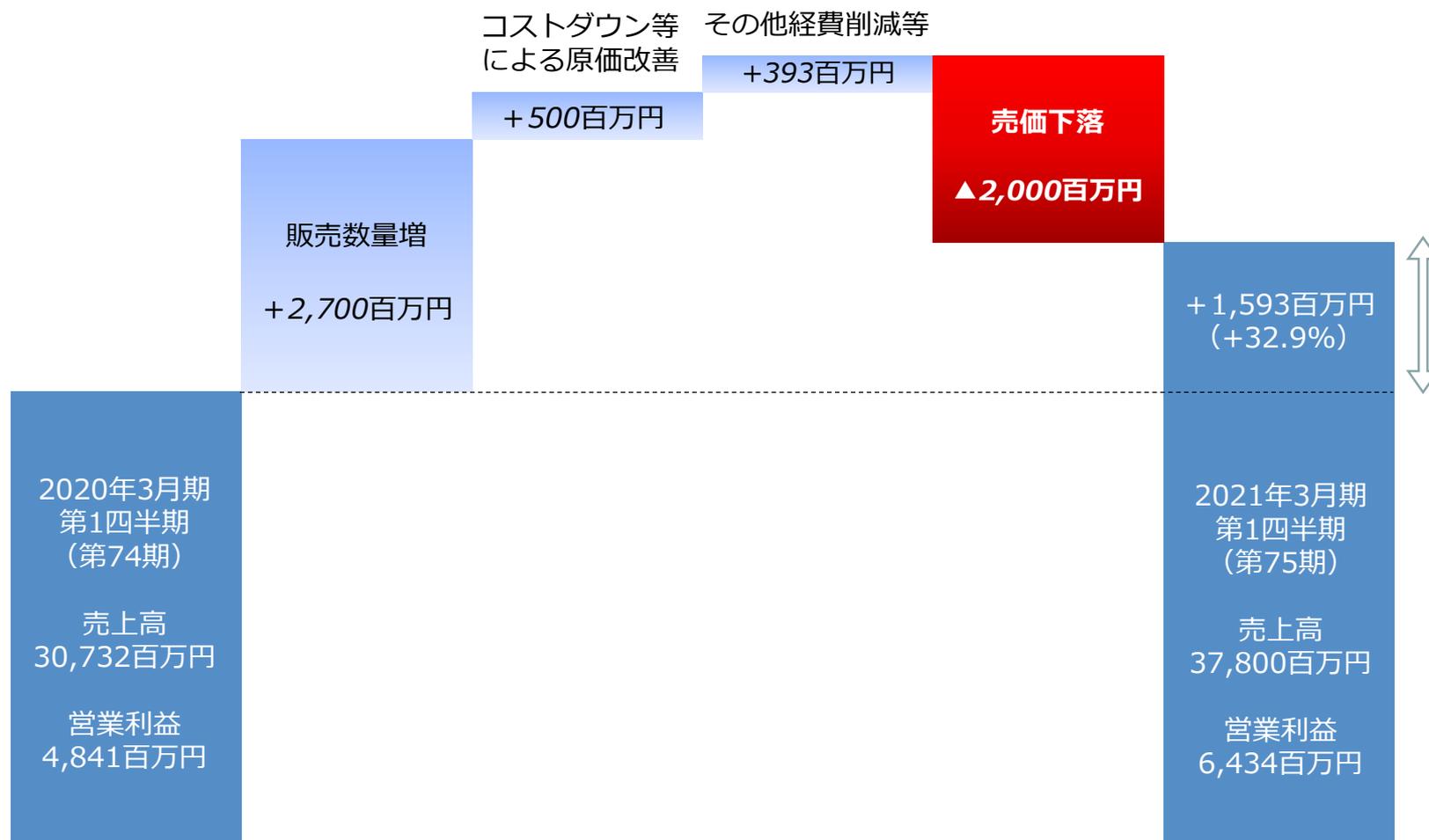
受注高



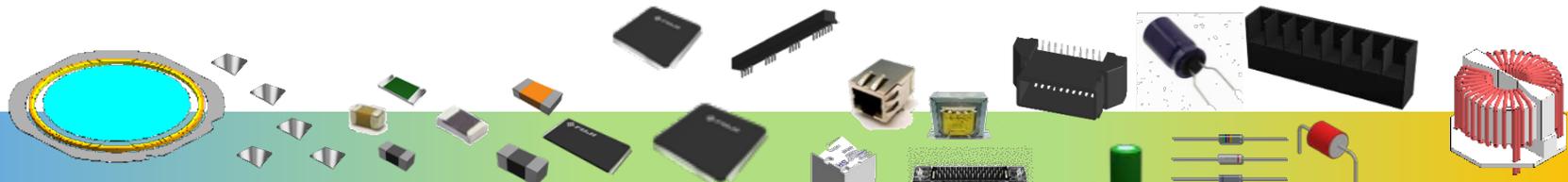
売上高



営業利益増減分析



ロボットソリューション事業



はんだ
印刷

Die

SMD

挿入部品



GPX-C NXT-H  DBシリーズ   sFAB-D

軽作業ロボット

プラズマ処理装置

宅配ロッカーシステム

介護ロボット



Tough Plasma

Quist

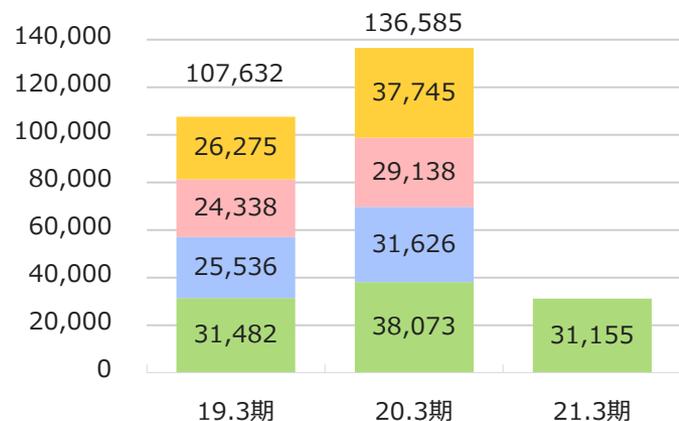
Hu9
移乗サポートロボット

ロボットソリューション事業 業績

(百万円)

	20.3期 Q1 実績	21.3期 Q1 実績	対前年同期	
			額	率
受注高	38,073	31,155	▲6,917	▲18.2%
売上高	26,818	35,374	+8,555	+31.9%
営業利益	5,419	7,519	+2,100	+38.8%
受注残高	28,937	22,286	▲6,651	▲23.0%

受注高

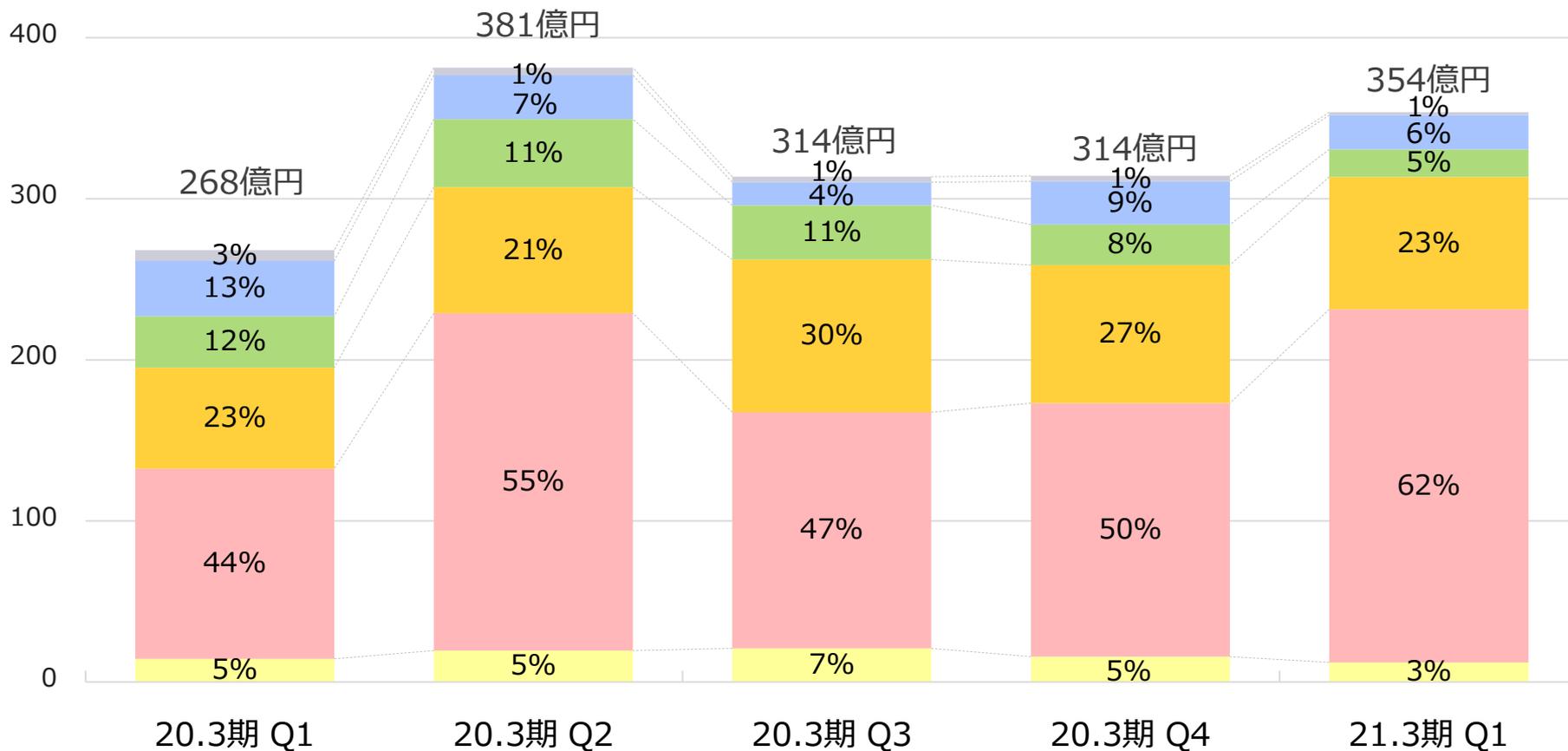


売上高



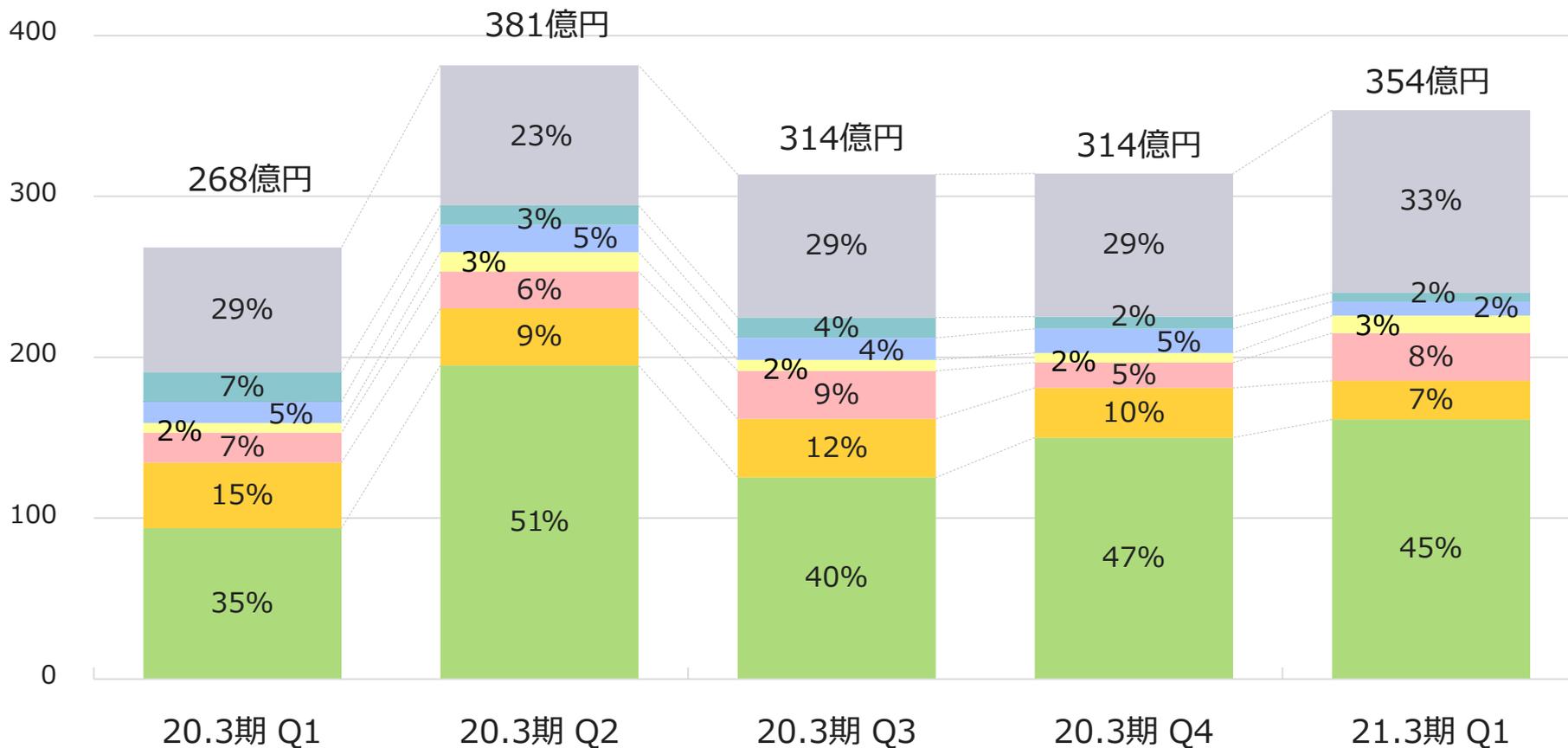
ロボットソリューション事業 地域別売上高

国内 中国 中国除くアジア ヨーロッパ 北アメリカ その他

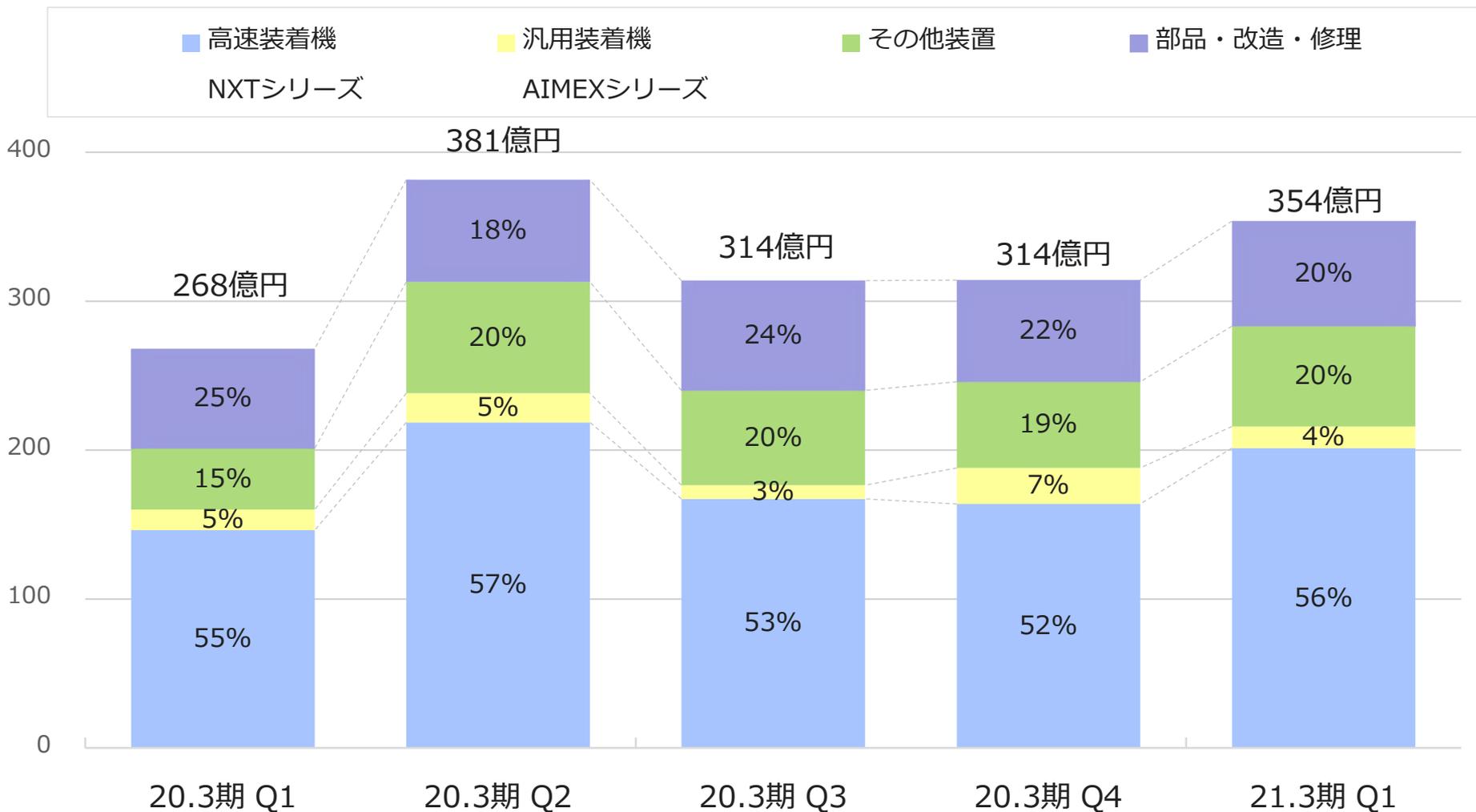


ロボットソリューション事業 業種別売上高

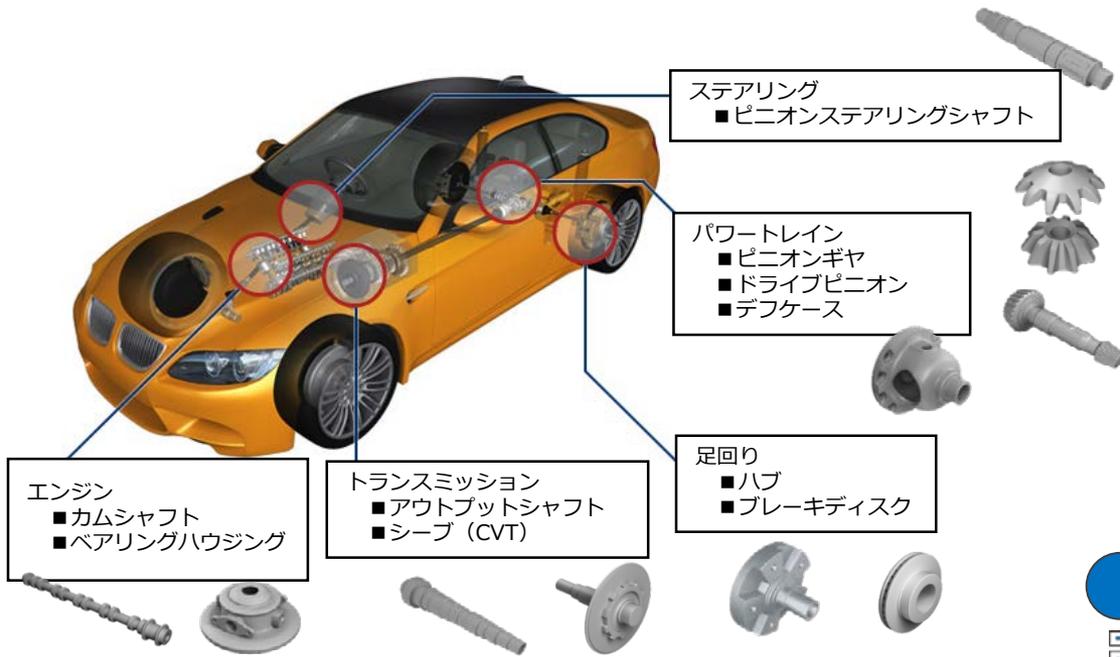
■ 通信 ■ 車載 ■ コンピュータ ■ サーバー ■ 家電 ■ 産業機械 ■ その他



ロボットソリューション事業 機種別売上高



マシンツール事業



正面2スピンドル旋盤

CSシリーズ



モジュール型生産設備

DLF



横型NC旋盤

TNシリーズ

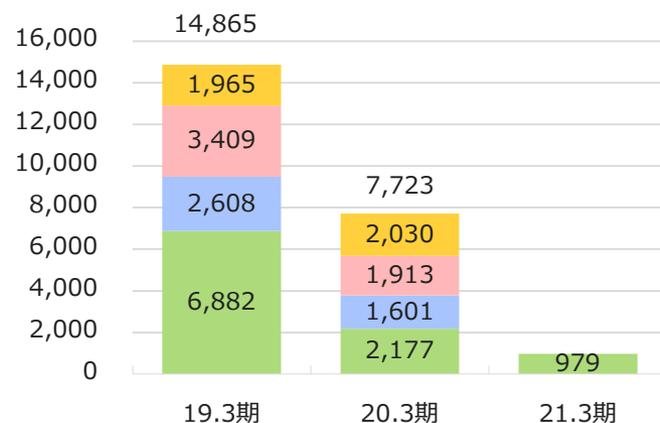


マシンツール事業 業績

(百万円)

	20.3期 Q1 実績	21.3期 Q1 実績	対前年同期	
			額	率
受注高	2,177	979	▲1,198	▲55.0%
売上高	3,553	1,794	▲1,758	▲49.5%
営業利益	197	▲337	▲535	▲270.8%
受注残高	7,073	4,517	▲2,556	▲36.1%

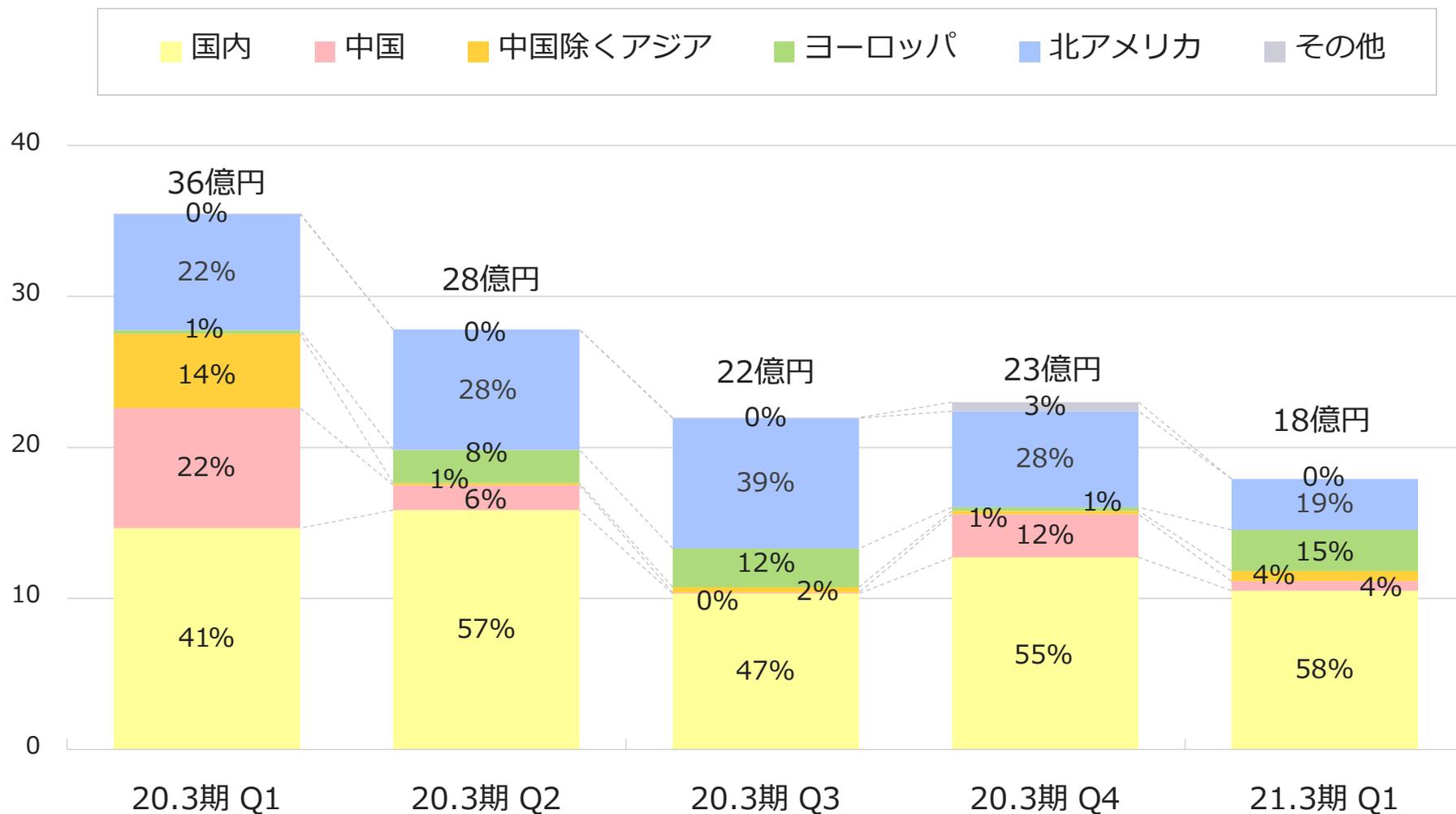
受注高



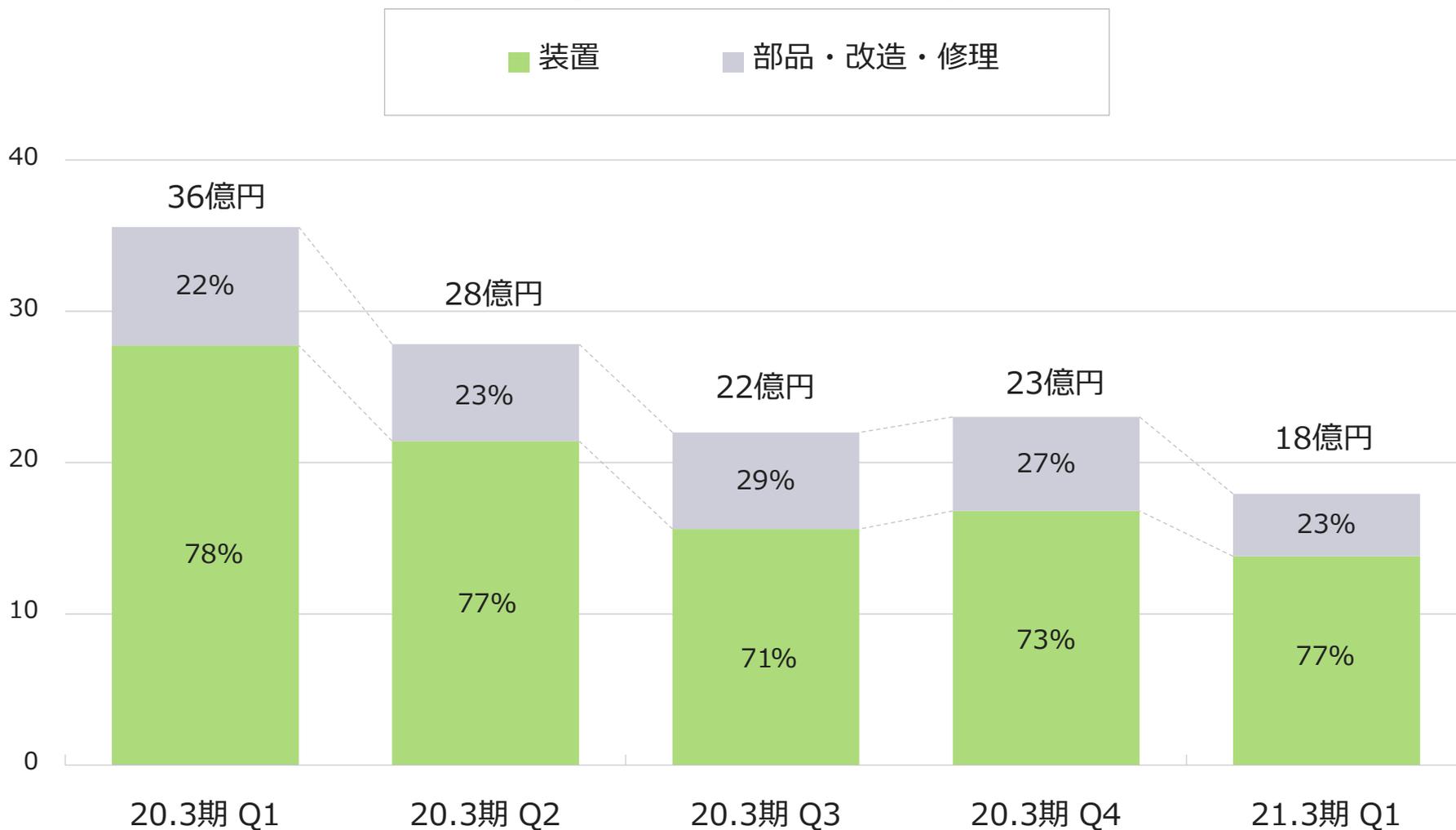
売上高



マシンツール事業 地域別売上高



マシンツール事業 機種別売上高



2021年3月期 業績予想

連結業績予想

・ 2020年5月12日公表の直近予想からの変更あり

(百万円)

	20.3期 通期実績	21.3期通期予想				
		2020年5月12日 公表予想	今回予想	対前年同期		対従来予想
				額	率	額
受注高	146,815	110,000	114,000	▲32,815	▲22.4%	+4,000
売上高	140,967	112,000	123,000	▲17,967	▲12.7%	+11,000
営業利益	19,571	9,000	12,500	▲7,071	▲36.1%	+3,500
営業利益率	13.9%	8.0%	10.2%	—	—	—
経常利益	20,119	9,700	13,300	▲6,819	▲33.9%	+3,600
当期純利益	14,963	6,900	9,400	▲5,563	▲37.2%	+2,500

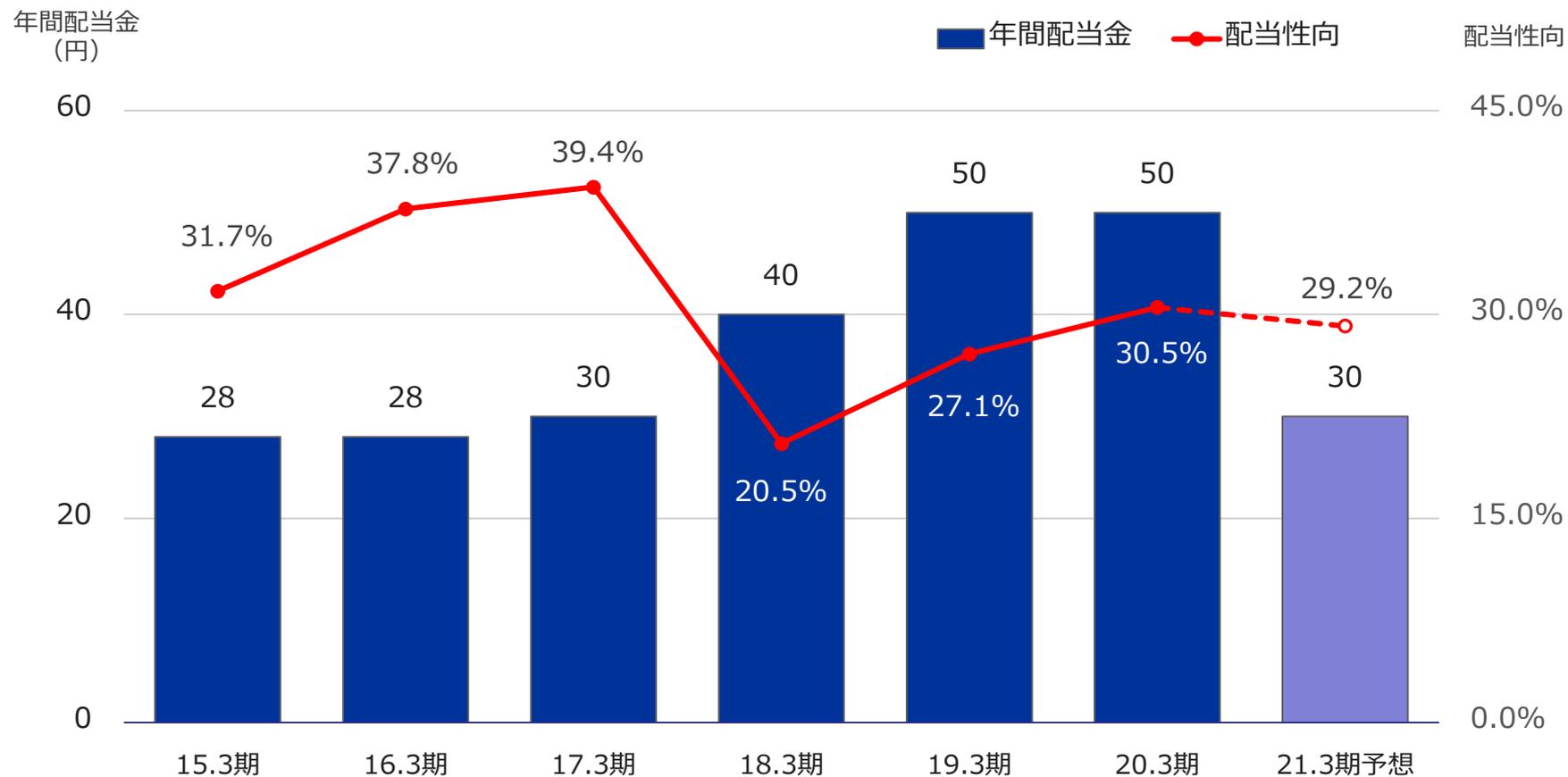
セグメント受注・売上予想

・ 2020年5月12日公表の直近予想からの変更あり

(百万円)

		20.3期 通期実績	21.3期通期予想				
			2020年5月12日 公表予想	今回予想	対前年同期		対従来予想
					額	率	
RS 事業	受注高	136,585	99,000	104,000	▲32,585	▲23.9%	+5,000
	売上高	127,763	101,000	112,500	▲15,263	▲11.9%	+11,500
	受注残	26,504	24,504	18,004	▲8,500	▲32.1%	▲6,500
MT 事業	受注高	7,723	9,000	6,500	▲1,223	▲15.8%	▲2,500
	売上高	10,839	9,000	7,000	▲3,839	▲35.4%	▲2,000
	受注残	5,333	5,333	4,833	▲500	▲9.4%	▲500
その他 事業	受注高	2,507	2,000	3,500	+992	+39.6%	+1,500
	売上高	2,364	2,000	3,500	+1,135	+48.0%	+1,500
	受注残	313	313	313	±0	-	±0

1株当たり年間配当金・配当性向



普通配当 24.00
記念配当 4.00

普通配当 40.00
記念配当 10.00

事業概要・その他

宅配ロッカーシステム **Quist**

ホームセンター業界最大手カインズ様の
全国50店舗で採用

ホームセンター業界初の「CAINZ PickUp Locker」



<カインズ様 新座店（埼玉県）に設置された「Quist」>

受取の自動化でお客様の利便性の向上、店舗運営の効率化、さらにはコロナ禍による非対面受取ニーズの高まり。

お客様が安全・安心にお買い物をして頂ける環境づくりを提供します。

詳細は当社ホームページへ
<https://www.fuji.co.jp/about/quist/>



移乗サポートロボット Hug

販路開拓により、昨年度は出荷台数が大幅増



Model
L1-01

在宅介護向け



Model
T1-02

施設・病院 介護向け

販路の継続的な開拓に加え、
コロナ禍での需要増、更には政
府による介護ロボット助成金制
度の改定を追い風に、今年度も
出荷台数増を目指します。

詳細は当社ホームページへ
<https://www.fuji.co.jp/about/hug/>



電子デバイスプリンター FPM-Trinity

電子デバイス産業新聞（発行元：産業タイムズ社）主催「第26回 半導体・オブ・ザ・イヤー2020」の半導体製造装置部門で、当社が開発中のFPM-Trinityが優秀賞を受賞しました。

- 樹脂3Dプリント
- 電気回路プリント
- 部品の自動実装

 FPM-Trinity



FPM-Trinityとは

FUJIが独自開発した電子モジュール製造装置です。
3D樹脂プリンターの技術、回路印刷の技術、部品実装の技術を複合しました。

詳細は当社ホームページへ
<https://www.fuji.co.jp/about/fpm-trinity/>



SDGsへの取り組み



当社は事業活動を通じてSDGsの実現に貢献します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

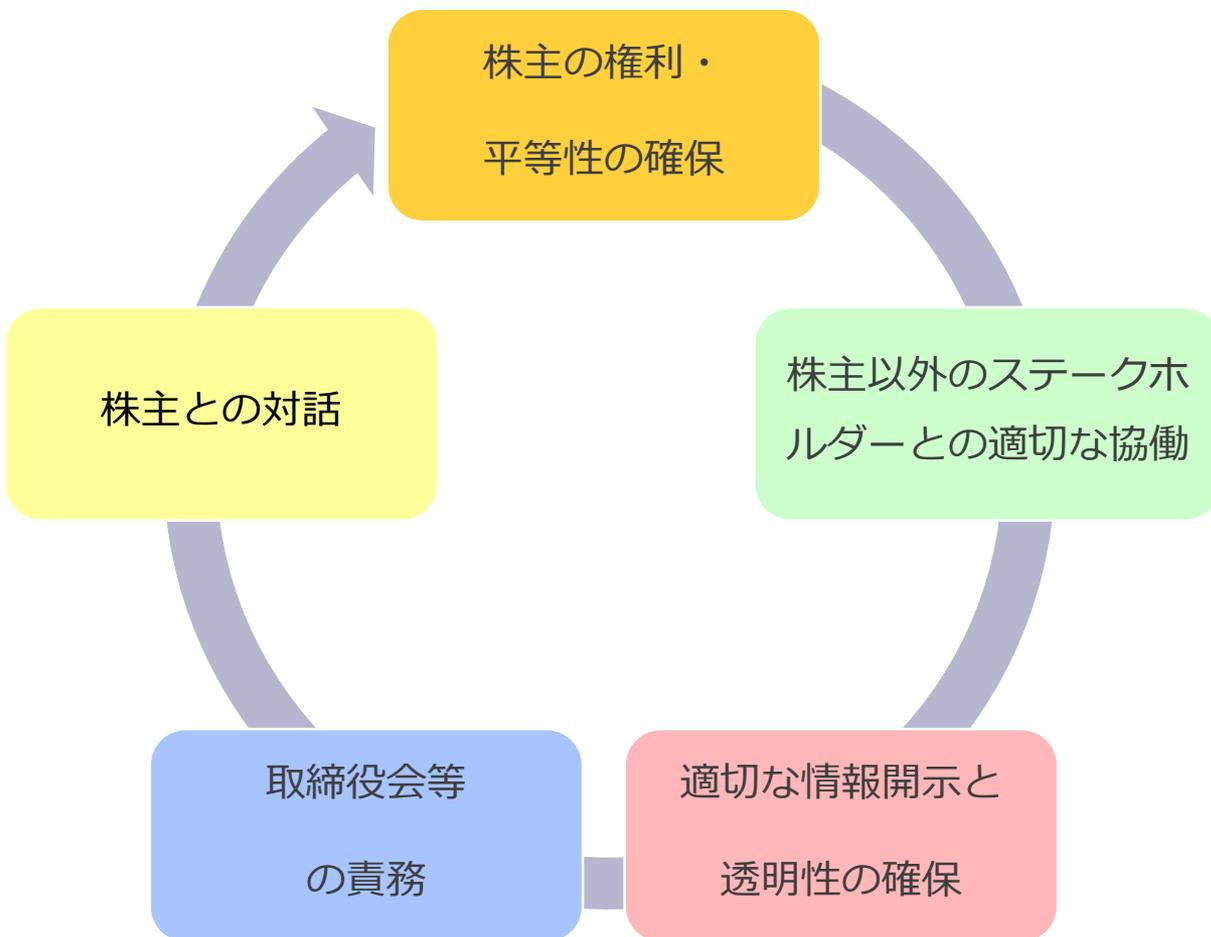


詳細は当社ホームページへ
<https://www.fuji.co.jp/company/csr/SDGs>



コーポレートガバナンス・コード

当社はコーポレートガバナンス・コードを踏まえて、企業価値の向上を目指してまいります。



1. 株主の権利・平等性の確保
 - ・ 英文開示の充実
 - ・ 招集通知の発送前電子開示
2. 株主以外のステークホルダーとの適切な協働
 - ・ 女性の活用を含む社内での多様性の確保
 - ・ 取引先・地域社会との絆
 - ・ 生き生きと働ける活力ある職場づくり
3. 適切な情報開示と透明性の確保
 - ・ コーポレートガバナンス報告書等への開示
 - ・ ホームページでの適切かつタイムリーな情報開示
4. 取締役会等の責務
 - ・ 取締役会の迅速な意思決定と業務の執行機能による経営のスピード化と責任の明確化
 - ・ 独立社外取締役の活用
5. 株主との対話
 - ・ IR説明会開催、SR面談の随時対応

お客様に感動を!



【本資料お取扱い上のご注意】

本資料を作成するにあたっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予測ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる場合があります。